

平成21年集落活性化調査委託事業

霊山 大石・田代集落調査
～NPO法人を持つ特別な集落へ～

福島大学行政政策学類

千葉悦子ゼミナール

1. 問題意識

- 地方の過疎地では高齢化が進み、地域内で地域活性化をするのは難しい。

⇒ 高齢者の多い地域住民だけで地域活性化は可能なのか？

発見！！

霊山町に住民自らがNPO法人を設立し運営をしている地区がある。



仮説！

小さな集落でNPO法人りょうぜん里山がっこうが何かの役割を果たしているのでは？

- まずは、大石・田代集落について知り、住民の生活状況を理解する！！

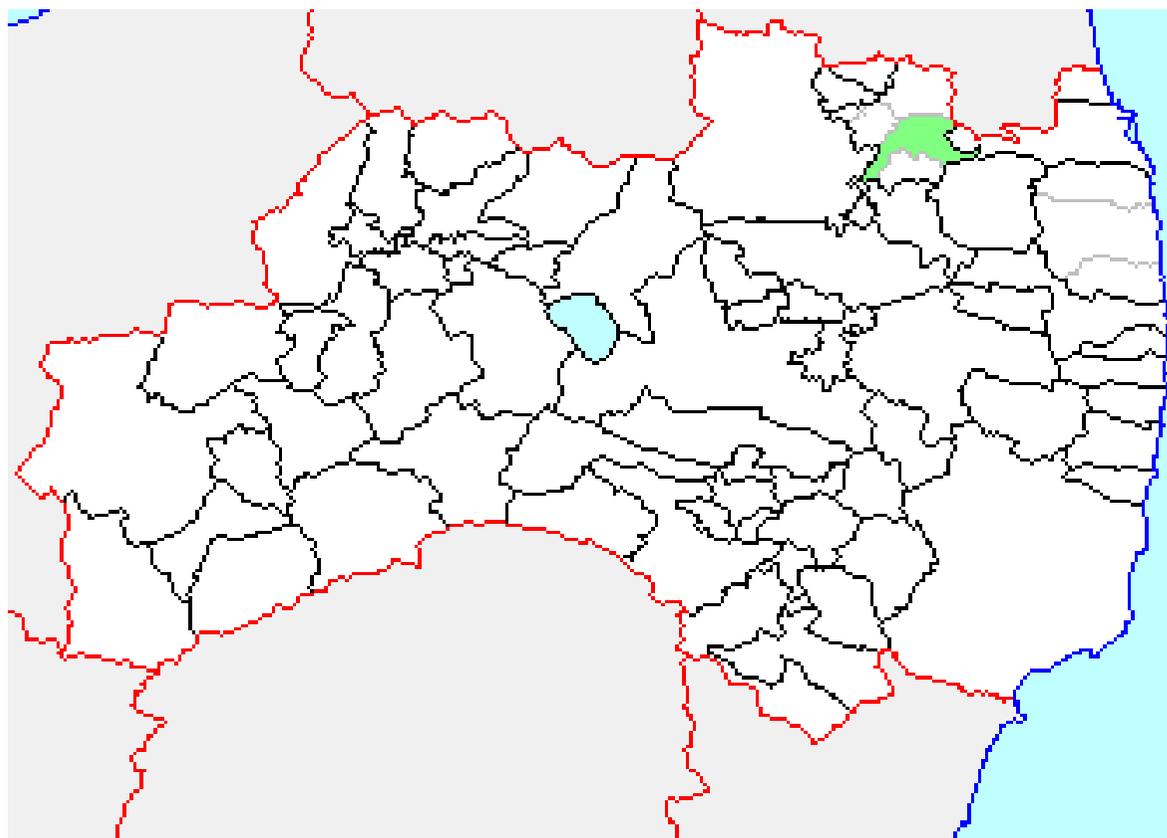
里山がっこうに実際に宿泊しながら調査を行った。



2. 大石・田代地区の概要

- 人口 66人(世帯数23戸)
65歳以上の人口 23人

- 高齢化率 34%



大石・田代地区における問題意識

①住民の生活状況

(どんな人が住んでいるの？住みやすいの？)

②集落の農業の実態

(農家なの？何を作っているの？どう消費しているの？)

③里山がっこうの役割

(里山がっこうって地区においてどんな位置にいるの？どんな貢献をしているの？)

④新規参入者

(どうして新規参入者がいるの？どんな人が参入するの？)



調査開始！！



福祉について

	認知	利用
1、緊急通報装置運営事業	9	3
2、訪問理美容サービス事業	10	3
3、寝具クリーニングサービス事業	9	4
4、自立支援デイ・ホームヘルプサービス事業	12	6
5、敬老祝金・百歳賀寿祝金	9	0
6、老人クラブ育成事業	11	4
7、高齢者配色サービス事業	9	2
ふれあい・いきいきサロン	15	11



- 理容サービス
- クリーニング
- デイ・サービス

利用者も

⇒ 親戚も助かる！

- ふれあいサロン

⇒ 少ない！（月1）



施設について



病院

福島医大まで24km
渡利中央病院まで16km
遠い！！



買い物

生協の宅配サービスや
ヘルパーが代わりに
買い物をしてくれる
不便さは感じられない



交通について

約70%が自家用車

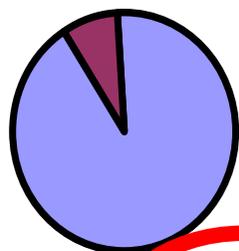
公共交通機関はほとんど利用がない・・・



農家に関して

農家と非農家の割合

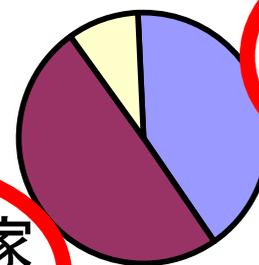
非農家
9%



農家
91%

専業農家と兼業農家の割合

どちらでも
ない
10%



専業農家
40%

兼業農家
50%

- 集落内ほとんどの世帯が農家
- 専業農家と兼業農家が互いに半数の割合



田畑に関して

- 実際に耕作している世帯は少ない
- 大規模な栽培は望めない
- 田より畑で耕作している世帯が多い



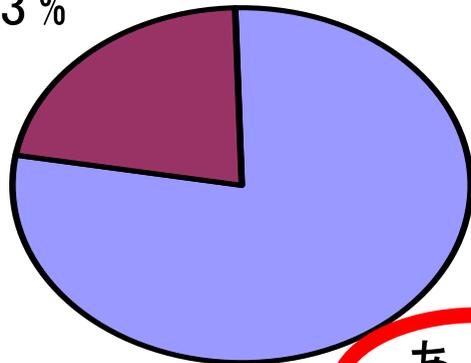
耕作放棄地・・・



耕作放棄地に関して

耕作放棄地の有無

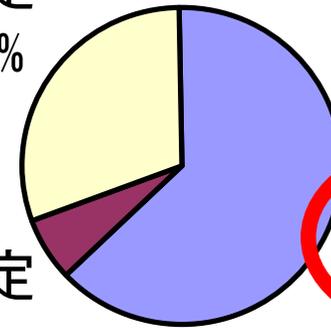
なし
23%



あり
77%

耕作放棄地の今後の扱い方

未定
31%



耕作予定
6%

現状維持
63%

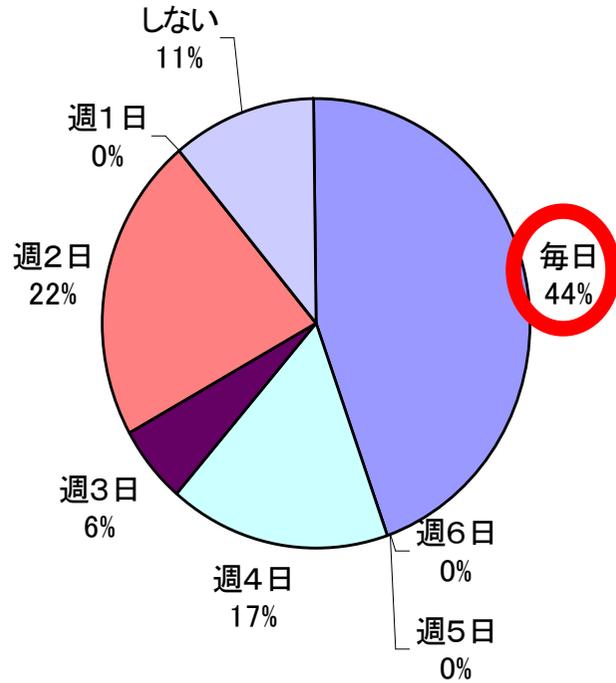
【理由】

- 獣害
- 栽培立地の悪条件
- 人手不足

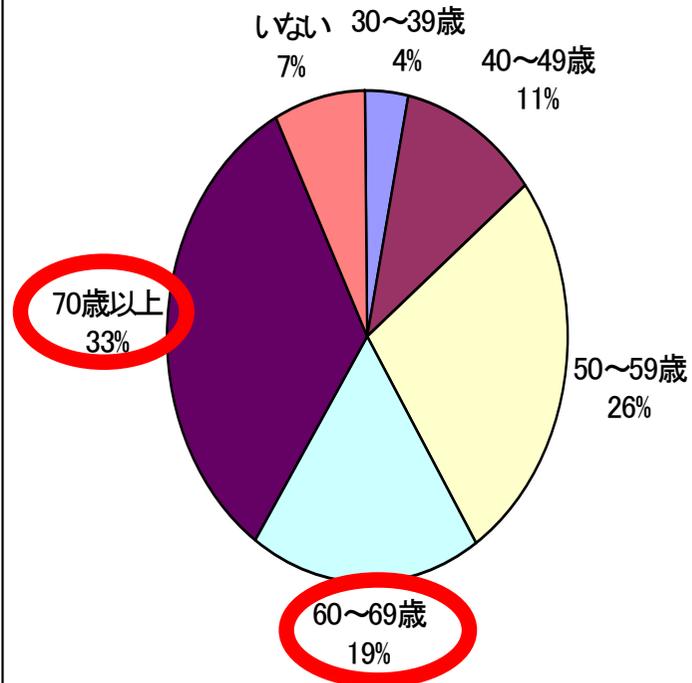


農業従事者に関して

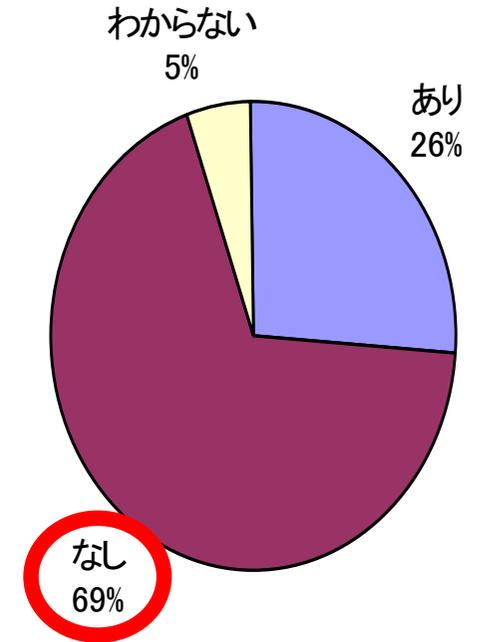
農業従事頻度



農業従事者の年齢



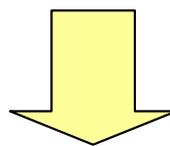
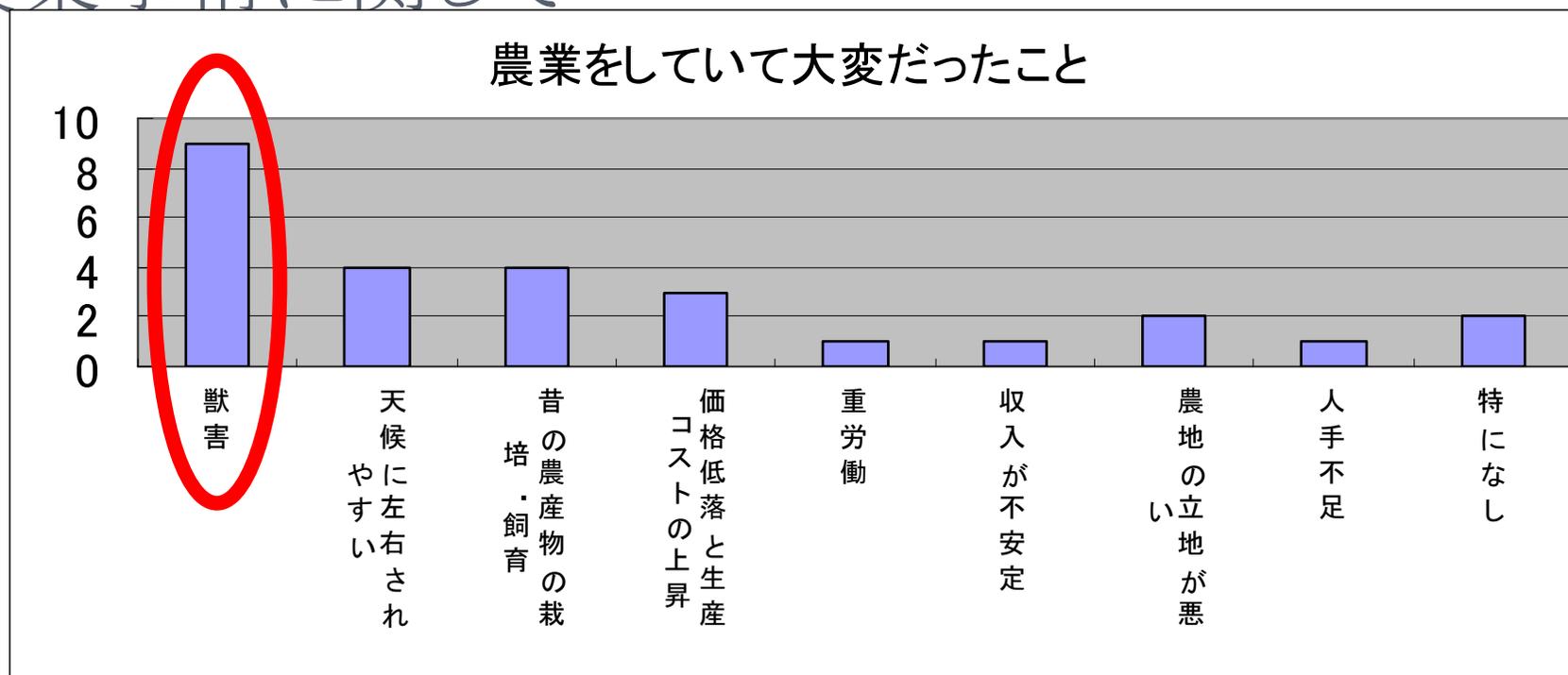
農業後継者の有無



後継者不足



農業事情に関して



対策が必要!

4. 新規参入者

- 大石・田代地区に移住された方には農業を目的とした方とそうでない方がいた。

①農業のために移住された方

- ・M氏は無農薬農業をするためきれいな水と自然を求めて移住。参入して10年が経った現在ではイノシシの被害に悩む。
- ・T氏は農業研修のため里山がっこの代表者のもとで生活している。定住する予定はない。

②農業が目的でない方

- ・S氏は芸術品制作時の騒音を気にしない作業場を求め、7ヵ月生活したが、先月福島市へ戻った。



予想に反して・・・

定住する意思を持つ方は一人だけであった。

しかし！！

- 小さな農村に新規参入者が訪れること自体が珍しいことである。
- 農業が目的でなくてもいい！！定住を強制・期待するのではなく、この集落はどのようなニーズにも応えられる可能性を持つことがわかった。



NPO法人りょうぜん里山がっこう



里山がっこう・パン工房・ポレット

天然酵母パン ポレット

5. 里山がっこうとは

○ 設立目的

- (1)自然とのふれあいの中で自然の優しさや厳しさを学び、自然の大切さを感じる。
- (2)人とのふれあいの中で、自分自身の大切さと他人のたいせつさを感じる。
- (3)自然と人とのふれあいの中で、生きがいや感動、友情を感じ、共に学びあう心を育てる。



住民への聞き取り調査

○里山がっこうに行く機会

⇒ふれあいサロン、老人会のイベント

○里山がっこうによる集落への影響

⇒変化を感じられない(多数)

○里山がっこうに協力したいか？

⇒すでに手伝っている、依頼されれば手伝う

○里山がっこうで農作物を販売したいか？

⇒販売できない、依頼されれば出品する

○里山がっこうへの要望

⇒集落にもっと関わってほしい



代表理事・高野金助さんの話

○ 課題

- ・若者を対象とした体験教室がない。
- ・若いスタッフがいない。

○ 展望

- ・ニート、不登校などへの支援
- ・農村移住者への相談活動
- ・集落移住者の仕事の創出



里山がっこうのスタッフ

- 今回は里山がっこうのスタッフ6人に対して調査を行い、それぞれの強みや弱みが伺うことができた。

強み

- ・ 人脈が深く、活動する上での理念をしっかりとっており、外部への売り込み能力に優れている。
- ・ 幅広い年代の人が働いているため、子育て世代から団塊世代までのニーズを知っている。

弱み

- ・ 外部への広報活動が忙しく、集落内とやりとりする時間が少ない。
- ・ 人手不足のためにスタッフ一人にかかる負担が大きい。



以上の強み弱みを踏まえて・・・

- ①人手不足
- ②経済面での問題
- ③冬場の活動の創造

これらの問題を解決するには、スタッフ一人一人の強みを生かしてそれぞれの役割を確立し、イベントの集約・修正をすることで仕事量の負担を均等にする必要がある。

具体的には、親子ボランティアの募集や冬に小学生の社会科見学にがっこうを利用してもらうなどの方法も考えられる。



7. 課題

集落内の協力で解決したい問題

- 後継者不足
- 助け合いの充実
- 集落と里山がっこうとの乖離
- 里山がっこうスタッフの不足

住民の力だけでは解決できない問題

- 地理的条件の克服・利用
- 獣害対策
- 交通の充実
- 病院への送迎の充実



8. 今後の可能性

- 里山がっこうと住民の協力

(農作物の販売・スタッフとして協力)

←里山がっこうスタッフの不足・集落と里山がっこうの乖離

- 里山がっこうのイベントの集約

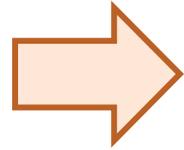
←里山がっこうスタッフの不足

その他の課題に対しての具体的提案は現段階ではできない・・・

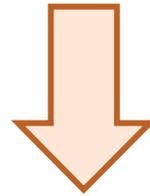
しかし！！



獣害の解決



- ・農家の意識向上
- ・所得の向上



後継者不足の解決の可能性
(Iターン移住者)

獣害の解決が
最優先



ご清聴ありがとうございました

